

# 毛呂山町議会議員 岡部かずお町政見聞録

第16号

発行人 岡部 和雄  
(毛呂山町議会議員)毛呂山町 毛呂本郷 227番地  
TEL 049-294-0018  
FAX 049-294-5345  
<http://kazuo-club.jp>

## プロフィール

- 昭和33年(1958年)毛呂本郷に生れる。
- 毛呂山小・中学校卒業。県立松山高等学校卒。
- 東洋大学経済学部卒業。
- 昭和62年29歳で毛呂山議会議員初当選
- 平成11年9月第45代毛呂山町議会議長に就任
- 各常任委員長・西入間広域消防組合議会議長等歴任
- 平成23年8月1,316票の得票で7回目の当選

時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

激動の二〇一二年であります。天台ショーケースの金環日食、東京スカイツリーの開業と天を仰ぐ出来事が続きました。ロンドンオリンピック・パラリンピックの日本人選手の大活躍とは対照的に、今、国民の焦燥感は更に高まり、既成政党への失望と、政策には、具体的な説明も何もない維新の会との比較にただため息をつくばかりです。

また教育界では、いじめ、自殺により尊い命を失われ、改めて、家庭教育・学校現場など地域が一体となつた教育環境の整備が早急に必要です。

長びく景気後退は、町内の中小企業・小売店でも更に厳しい状況が続きます。消費税増税という形での負担増に私たち国民は正に天先には大変になります。

市場経済感覚とスピード感を持ち次の世代に「もろやま町」を引き継がなければなりません。町内の商工業者をもう一度よみがえらせ雇用を確保し、若者が定住する町づくりをしなくてはいけません。これからも私の政治生命をかけて責任世代五十四歳、町の再生のために全力投球をしますので変わらぬご支援をお願いします。

# 若者が定住するまちへ

毛呂山町の人口推移を見ると、近い将来六十五歳以上の割合は、四人に一人から、三人に一人の割合になります。元気な高齢者が増える一方、療養をしながら家にとじこもりがちな方、高齢者だけの世帯や一人暮らしの方も増えています。

祭礼や清掃活動などのイベントを行うのが困難な家庭が多くなると、行事を取りやめるか、若い者だけで行うかの選択が近い将来迫ってきます。

左図は、国立社会保障・人口問題研究所の推計した二〇一〇年と二十年後の二〇三〇年の五歳ごとに集計した人口の比較です。

毛呂山町の人口推移を見ると、近い将来六十五歳以上の割合は、四人に一人から、三人に一人の割合になります。元気な高齢者が増える一方、療養をしながら家にとじこもりがちな方、高齢者だけの世帯や一人暮らしの方も増えています。

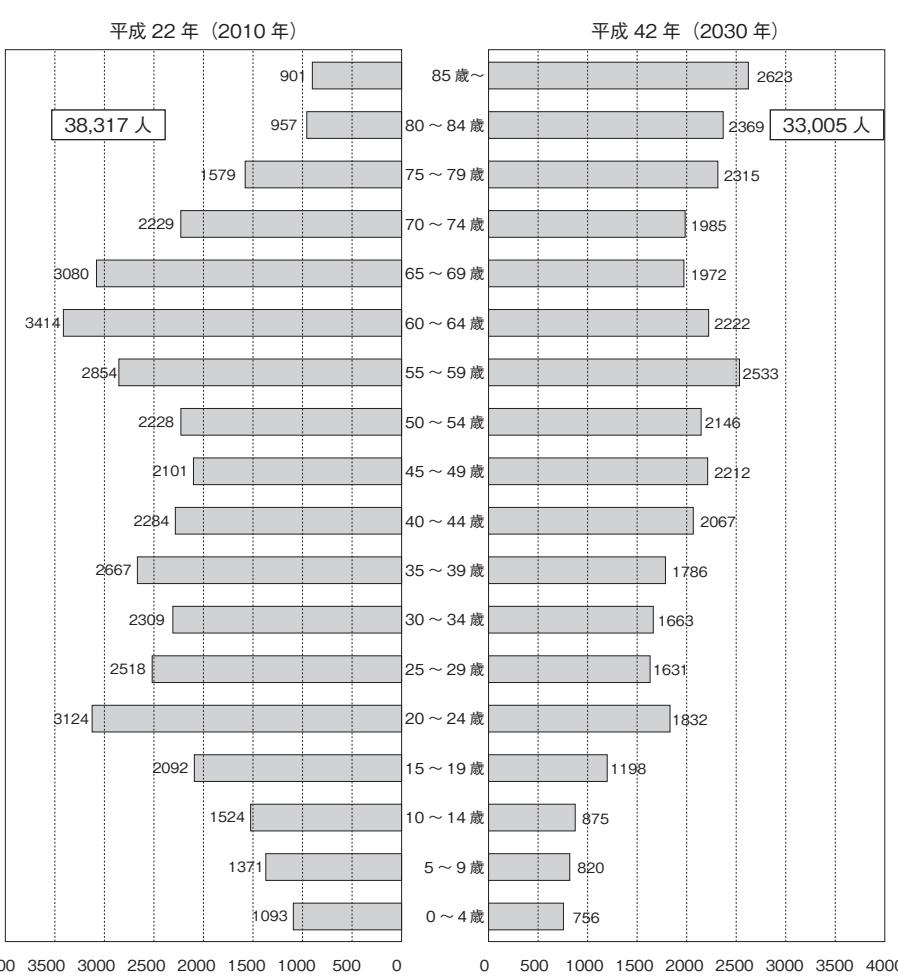
祭礼や清掃活動などのイベントを行うのが困難な家庭が多くなると、行事を取りやめるか、若い者だけで行うかの選択が近い将来迫ってきます。

左図は、国立社会保障・人口問題研究所の推計した二〇一〇年と二十年後の二〇三〇年の五歳ごとに集計した人口の比較です。

総人口は、五、三二二人減り三三、〇〇五人となり五十九歳以下の人口が減つて六〇歳以上の人口が増える見込みです。働き手が減り、高齢者が増る社会が想定されます。この社会現象により税収が減り、結果的に更なる行政改革をすすめなくてはなりません。町の財政もさらに厳しくなってきます。

しかしながら何もしなければ寂しい町になってしまいます。また、人口減少を止めるには、若者が毛呂山に住んでもらうと同時に定住してもらう必要があります。そのためには「雇用の確保」をし、「税収入増」を図ることが私の主張です。

毛呂山町将来推計人口



## ①企業誘致と流出防止

- ・他市町村に負けない企業誘致の優遇措置を更に強力にします。他市町村よりも条件が良くなければ毛呂山町を選んでくれません。また、町内から正社員が雇用されるよう誘導します。
- ・企業や住宅開発の専門窓口を設置し、他市町村に負けないスピードな対応をします。
- ・現在町内にある企業にとつて操業しやすい環境を整備するための意見交換の場を創設します。

## ②医療福祉のまち毛呂山の更なる前進

- ・埼玉医大・毛呂病院・地元開業医と町の連携を強化する。
- ・予防医療の徹底を図る。

## ③バイパス沿線の商業施設と観光行政の推進

- ・道の駅の開設により地元商工業との提携をより強力にします。
- ・鎌北湖・みのわだ湖・バラ園・コスマス園などの観光行政の一体化を進める。

## ④子育てしやすい教育環境整備

- ・共働きが増えていています。町のお金の使い方を工夫し、学童保育所の更なる整備を推進します。
- ・小中学校の校舎木簡化を進め、エアコンの設置をスピードに進めます。



ゆずの里商店街 每年恒例の秋祭りにて



商工会青年部 アポありサンタ いざ!! 子供たちに夢を!!

**若者が定住するまちへ**



**まちづくりへの熱き思い**



国の予算の内、収入の約30%は借金、支出の25%は借金の返済です。せめて、その年の収入程度に支出を合わせないと、いつまでも借金は増え続けてしまいます。消費税増税により、町の財政がよくなるとは思えません。今こそ地方の時代です。自分たちの町は、自分たちで責任をもって自治体運営すべきです。それには、収入の増と支出の見直ししかありません。

私は、医療・福祉・教育の必要な予算は、最大限確保しつつ、残りのお金で知恵を出し、「まちづくり」をすべきだと考えています。町にお金がない以上、行政主導の「まちづくり」は限界です。地域の方々が立ち上がり、みんなで知恵を出し協力することでしか、地域の衰退を止めることはできません。そのための町ができる、人的、財政的支援をするべきだと思います。これからも、私今日までの私の経験と人脈を大いに活用し、今までの行政運営を大きく変え「まちづくり」を前にすすめていきます。

9月定例会最終日に町の表彰規定により議会議員二十五年の永年勤続の表彰を受けました。昭和六十二年二十九歳で初当選から今日まで、御支援を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。